



今後の予定

今後、車のスピード抑制に向けた安全対策の検討を進め、対策の試行（社会実験）を行う予定です。

【平成30年度】

第1回 協議会 : 課題共有、対策内容の紹介 (8月31日)

第2回 協議会 : 対策案の検討 (10月1日)

社会実験 : 11月中旬～12月中旬 (予定)

アンケート調査 (対策内容の効果検証) : 12月 (予定)

第3回 協議会 : 社会実験結果の報告 (1月下旬)

次年度以降の取り組み

【コラム】交通安全の対策メニュー

交通安全の対策メニューとして、速度抑制、注意喚起、歩行者の安全確保することを目的に、「路面標示」、「注意喚起看板」、「ハンプ・交差点ハンプ」、「狭さく」、「スムーズ横断歩道」、「グリーンベルト」、「防護柵」、「カラー舗装」等があります。これら対策メニューを参考に中山町地区にあった対策メニューを検討します。

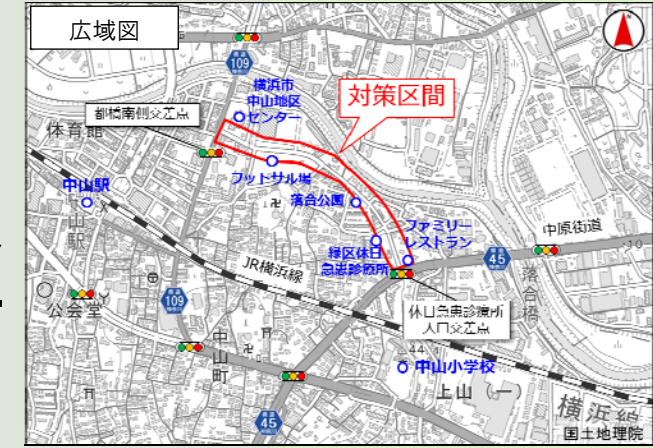
| 種類 | 安全対策メニュー | | | ()内は安全対策の目的 |
|------|-----------------|---------------------|----------------------|-----------------------|
| 施設整備 | ①路面標示 (速度抑制) | ②看板 (注意喚起) | ③減速ドットライン (速度抑制) | ④ハンプ、交差点ハンプ (速度抑制) |
| | ⑤狭さく (速度抑制) | ⑥スムーズ横断歩道 (速度抑制) | ⑦グリーンベルト (視覚的な分離) | |
| | ⑧防護柵 (物理的分離) | ⑨カーブミラー (死角の削減) | ⑩カラー化 (注意喚起) | |

問合せ先・発行元
 横浜市道路局施設課
 電話(045)671-2785
 担当: 榎田、吉田



横浜市道路局施設課

中山町地区 交通安全対策協議会 ニュース



車のスピード抑制のための検討を始めました！

みなさん、こんにちは！横浜市道路局です。

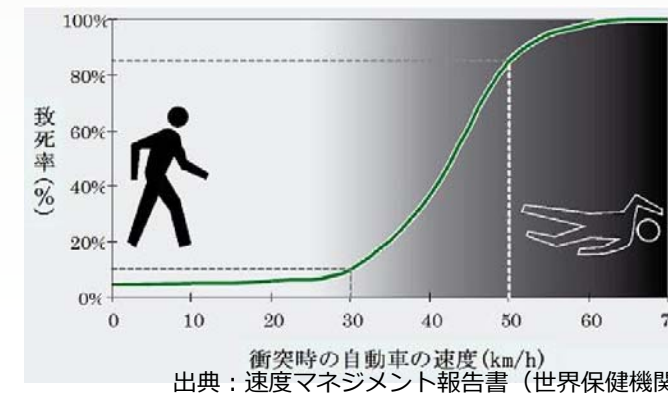
横浜市では、通学路など生活道路の安全対策を進めています。緑区中山町地区の休日急患診療所入口交差点～中山地区センターまでの道路において、スクールゾーン対策協議会の皆さま及び住民の皆さまより、スピードが高くて危ないとの意見を頂いております。このため、地域住民の方々等をメンバーとする「中山町地区交通安全対策協議会」を立ち上げて、安全対策を検討することとしました。

協議会で話し合った結果をお伝えするため、今回のニュースを発行することとしました。今後も、協議会の開催後に発行していきますので、よろしくお願いいたします。

なぜ車のスピード抑制が重要なのか？

誰も交通事故を起こしたくありません。横浜市でも、道路の安全性を高めるために、様々な対策を実施しています。しかし、横浜市内では、年間約1万件の事故が発生し、昨年は51の方が亡くなられています。

死亡事故を防ぐために自動車の速度抑制は重要です。時速30kmを超えると死亡事故に至る確率が急上昇します。日本では、住宅街を時速40～50kmで走る車も多く、生活道路では車のスピードを抑制することが大変重要です。



目次

交通事故発生状況 2
 協議会で頂いた主な意見... 3
 ビッグデータによる分析 2～3
 今後の予定 4

<ハイライト>

- 車の速度を30km/h以下に抑えることが重要
- ビッグデータの分析により中山町地区でのスピードが高い区間を特定
- スピード抑制対策を検討

事故データについて

右の図は、平成26年から平成28年の交通事故を被害者側の当事者で分類したものです。(ただし、どちらかに過失があったかは考慮していません。)

また、事故データは、届出のあった交通事故の全てを対象にしています。

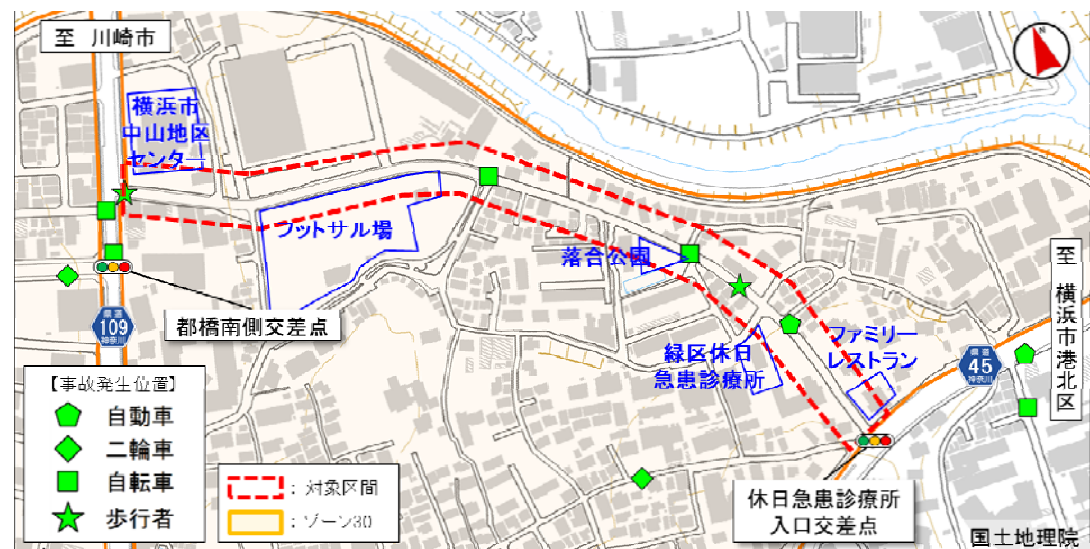
ゾーン30について

生活道路での歩行者や自転車などの安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の1つです。

区域(ゾーン)を定めて最高速度30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における車の走行速度や通り抜けを抑制します。

交通事故発生状況

中山町の事故発生状況を見ると、3年間で5件が発生しており、歩行者または自転車が関係する事故が多いです。



※イタルダ生活道路事故データ(国土交通省提供)を加工し、横浜市が作成

協議会で頂いた主な意見

平成30年8月31日に開催した第1回協議会では、中山町地区の交通状況や対策要望などについて、住民の方からご意見を頂きました。

- 中山町地区では、地区を**通り抜ける車やスピードが高い車が多いこと**がデータで分かった。
- マンション前のカーブの進入速度が高く、危ないと感じる。
- 防護柵を設置した当初は、スピードが下がったものの、現在は、設置以前と比べ変わらなくなっている。
- 休日急患診療所の前の交差点は、下り坂のためスピードが出やすく、カーブになっているため見通しが悪い。
- 日常的に利用している車が多いので、**視覚的対策(路面標示、注意喚起看板)**では慣れてしまうため、**物理的な対策**を行ってほしい。



次回以降、車のスピード抑制対策の検討を進めます

協議会の様子



安全対策のメニュー

交通安全の対策メニューとして、速度抑制、注意喚起、歩行者の安全確保することを目的に、「路面標示」、「注意喚起看板」、「ハンブ・交差点ハンブ」、「狭さく」、「スムーズ横断歩道」、「グリーンベルト」、「防護柵」、「カラー舗装」等があります。これら対策メニューを参考に中山町地区にあった対策メニューを検討します。(写真は次頁)

交通事故から人命を救うためには車のスピードを30km/h以下に抑えることが重要

ビッグデータとは?

ETC2.0は、国土交通省が整備を進めているデータで、速度や急ブレーキ、走行経路を記録する機能があります。もちろんプライバシーが侵されることのないよう配慮されています。

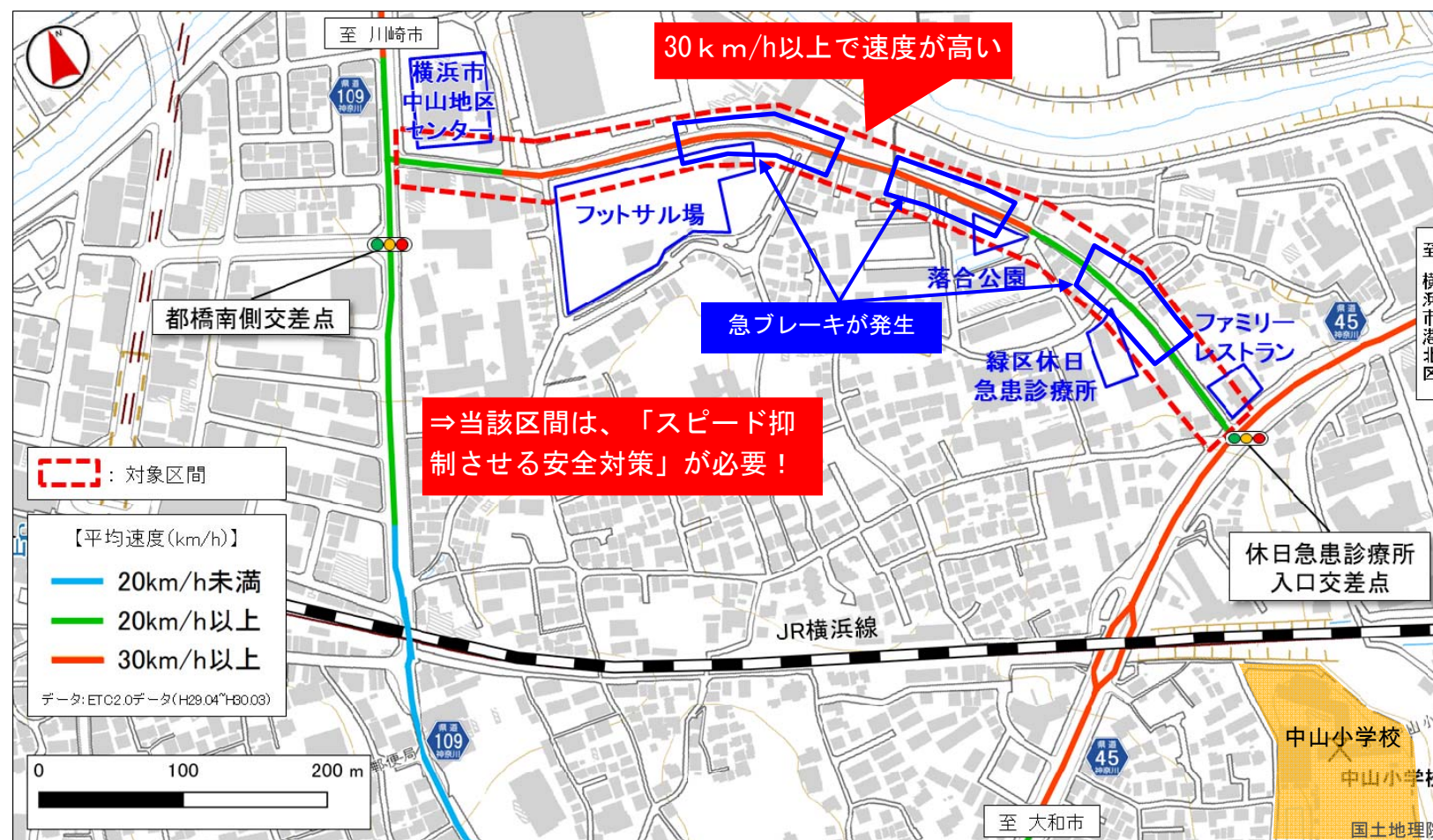
集められたETC2.0データを分析することにより、スピード超過や急ブレーキが多発する箇所を特定することができ、事故が発生する前に対策実施し、事故の未然防止に役立つことが期待されています。

ビッグデータによる分析

中山町地区の交通状況を把握するため、国土交通省の協力を得て、ETC2.0によるビッグデータの分析を行っていただきました。

この結果、休日急患診療所入口交差点～中山地区センターまでの道路において、ゾーン30のエリアとなっていますが平均30km/h以上の速度が出ている区間があることが分かりました。また、急ブレーキをかけている自動車も多くいました。(右図の青枠)

次回以降、自動車のスピード抑制対策を目的とした安全対策を検討していきます。



※ETC2.0分析(国土交通省提供)を加工し、横浜市が作成



提供：国土交通省

協議会のメンバー

- <メンバー>
- 中山町自治会
 - 中山小学校
 - 緑警察署
 - 緑土木事務所
- <オブザーバー>
- 国土交通省横浜国道事務所
 - 学識経験者
- <事務局>
- 横浜市道路局施設課